

# I 研究主題

## 自分の考えをもち、表現できる児童の育成 —国語科における伝え合う活動を生かした授業構想の工夫—

# II 研究主題設定の理由

本校は教育目標に、「夢をもち、自ら学び心豊かにたくましく生きる児童の育成」を、その具体目標に「進んで学ぶ子」、「思いやりのある子」、「ねばり強い子」を掲げている。本研修主題は、具体目標の中の「進んで学ぶ子」を重点化して設定したものである。自分の考えをもち、それを表現できる力を身に付けた児童の育成を目指し、国語科における伝え合う活動を生かした授業構想の工夫・改善を行う授業実践により、「進んで学ぶ子」の具現化を図ろうとするものである。

本校は平成23、24年度の二年間、算数科において考えを伝え合う交流活動を工夫することで、考える力を高めていく授業づくりに取り組んできた。その結果、交流活動の場面で自他の考えを比較、検討していく学習が定着してきた。また、「活用すべき既習事項を明確にすること」や、「課題解決への見通しのもとせ方を工夫すること」等により、児童が主体的に学習活動に取り組んでいく上で重要であることが授業実践の積み上げを通して明らかになった。

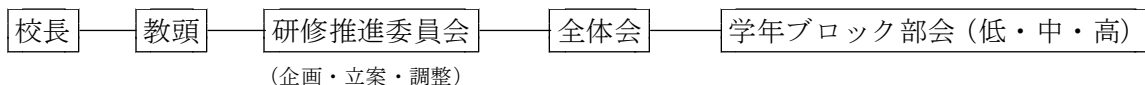
一方で児童の実態として、言葉を通して自分の考えを相手に分かりやすく伝えることに課題が残った。そこで、より一層の言語活動の充実を目指し、お互いの考えを言葉で伝え合う力を育成していくために、本年度から国語科の指導の工夫に取り組むことで、研修の深化や教師の指導力向上につながると考えた。

これらのことから本年度は、これまでの研修を踏まえ、国語科において既習事項をもとに伝え合う活動を生かした授業づくり、児童が見通しをもち主体的に学習に取り組めるような授業構想の工夫・改善を行っていくことを通して、自分の考えをもち、表現できる児童の育成を目指したいと考え、本主題を設定した。

# III 研究のねらい

国語科の指導において、伝え合う活動を生かした授業構想の工夫・改善を行うことにより、自分の考えをもち、表現できる児童の育成を目指す。

## IV 研究の組織



## V 研究の概要

### 1 部会を基軸とした共同研究体制における授業実践(一人一授業公開)

低・中・高の各部会では、授業構想の検討→指導案の作成→(プレ授業)→研究授業→授業研究会の流れで授業実践の積み上げを行った。授業研究会で挙げた成果は日常の実践に活用し、課題はどのように改善していくかについて共通理解を図り、授業で実践していくようにした。代表授業、B訪問での全職員参加の授業リフレクションも含め、授業実践の積み上げを中心とした共同研究体制を進めた。

### 2 目指す児童像の設定と共通理解に基づく授業実践

目指す児童像を設定し共通理解を図ることによって、その実現に向けて手立てや支援を吟味した上で授業実践を行った。

#### 《目指す児童像》

- ・見通しをもち、既習事項を活用して自分の考えをもてる子
- ・言葉を通して考えを分かりやすく伝え合える子

### 3 思考力・言語能力を育成する基盤づくり

学習習慣の定着を目指し、「学習の約束」の活用を図るとともに、自己チェックを取り入れ、児童の意識が継続できるようにした。また、ハンドサインを活用し、自分の考えと友達のことを比べながら聞く態度や発言をつなげて考えを高めていく意識の向上を図った。

### 4 単元を貫く言語活動を位置づけた授業づくり

児童が興味・関心をもって取り組めるよう単元を貫く言語活動を設定し、ゴールを明確にした上で見通しをもって学習に取り組めるようにした。

### 5 児童の思考の状況・変容を見取る評価のあり方

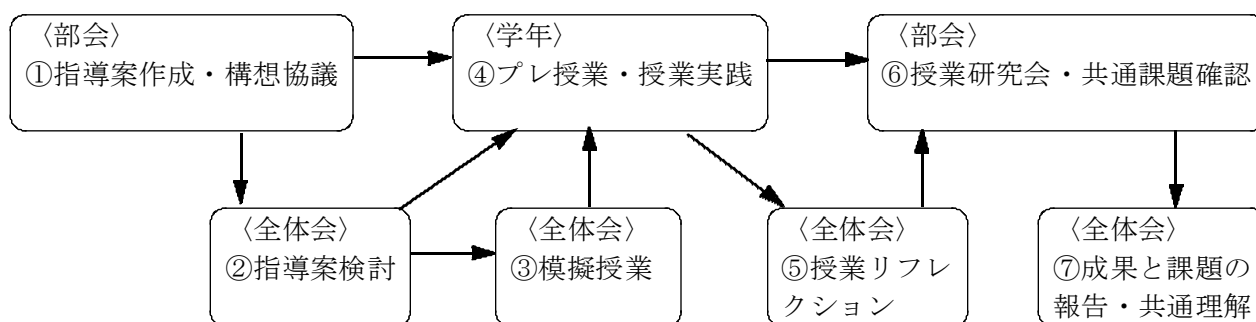
授業実践において、ノートやワークシートの記述内容、交流活動や発言の様子等から児童の思考の状況や変容を見取ってきた。また、国語の授業にかかわる児童の意識調査を年2回実施し、結果を分析することで、実態を把握して授業実践に生かすとともに、共通理解を図った。

# VI 研究の経過

## 1 全体研修

学期	主な研修内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修主題の設定、研修内容と方法の検討、研修体制作り</li> <li>・児童の実態の把握</li> <li>・「学習の約束」の確認</li> <li>・目指す児童像の設定、共通理解</li> <li>・文献研究</li> <li>・授業実践の計画</li> <li>・指導主事A訪問・授業実践               <ul style="list-style-type: none"> <li>3年 算数「たし算とひき算の筆算」</li> <li>5年 なかよし 表現を楽しもう「注文の多い料理店」</li> <li>3年 読書を楽しもう「あらしの夜に」</li> </ul> </li> <li>・国語の授業にかかわる意識調査、分析</li> <li>・学力検査の分析</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育研修</li> <li>・授業実践               <ul style="list-style-type: none"> <li>代表授業 4年 事例に注目しながら全体をとらえよう「手で食べる、はしで食べる」</li> <li>B訪問 5年 コミュニケーションの達人になろう！「くり返しのはたらき」</li> <li>2年 あいさつノートを作ろう「あいさつとみぶりのことば」</li> <li>5年 理科「ふりこのきまり」</li> <li>3年 ミラクル〇〇図かんを作ろう「ミラクルミルク」</li> <li>6年 池上彰さんと〇〇の学べるニュース新聞を作ろう「メディア・リテラシー入門」</li> <li>1年 くらしをまもる車ずかんをつくろう「くらしをまもる車」</li> <li>1年 なかよし まねっこしよう「くまさん くまさん」</li> </ul> </li> <li>・授業研究会及び授業リフレクション</li> <li>・国語の授業にかかわる意識調査、分析</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の成果と課題の検討、児童の変容の分析、まとめ</li> <li>・次年度の研修の方向付け</li> </ul>

## 2 共同研究体制における授業実践の流れ



○ B訪問授業 ①・②・③・④・⑤・⑥・⑦

○ 代表授業 ①・②・④・⑤・⑥・⑦

○ 各授業 ①・④・⑥・⑦

# VII 各学年の実践

## 実践例・第1学年 単元名「くらしをまもる車ずかんをつくろう」 教材文「くらしをまもる車」

(10時間予定：本時は4時間目)

### 1 本時のねらい

救急車、消防自動車、ごみ収集車についての文を比べて読み、文章構成の共通点をとらえることができる。

### 2 授業の視点

救急車、消防自動車、ごみ収集車について書かれた教材文を比較しながら読み、文章構成の共通点について考えを伝え合う活動を取り入れる。

### 3 授業の実践（12月11日実施）

#### (1) 評価項目【読むこと】

○はおおむね満足できる状況、☆は十分満足できる状況

○救急車、消防自動車、ごみ収集車についての文を比べて読み、文章構成の共通点に気づいている。  
☆救急車、消防自動車、ごみ収集車についての文を比べて読み、文章構成の共通点を理解し進んで発表している。


(評価方法) 発言・観察

#### (2) 展開

〈1年1組 31名〉

過程	学習活動	支援及び児童の様子
つかむ	1 学習のめあてを確認する。	<p>学習のめあて 『くらしをまもる車ずかんをつくろう。』</p>
	2 教材文を音読する。 3 問いの文を確認し、本時のめあてを把握する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとまりを意識させるために形式段落ごとに区切って音読させる。</li> <li>働きは「赤」、工夫は「青」で色分けして提示する。</li> </ul> <p>〈とい〉 それぞれの車は、 どんなはたらきをしているでしょうか。 そのために、 どことなくふうがあるでしょうか。</p> <p>「はたらき」はしごとのことです。      「くふう」はすごいところです。</p>
	三つの文をくらべてよみ、 にているところを見つけよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のめあてを確認し、意欲をもたせる。</li> <li>三つの車を写真（掛け図）で確認する。</li> </ul> <p>きゅうきゅう車、しょうぼうじどう車、ごみしゅうしゅう車の三つです。</p>
	4 三つの車についての文を比べて読み、共通点を見つける。 ・自分で考える。 ・ペアで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの車について書かれた文を縦に並べたワークシートを使用し、比べながら読めるようにする。</li> <li>似ている（同じ）言葉や文に着目させながら共通点を見つけさせていく。</li> <li>見つけたことを言葉で伝え合うようにさせる。</li> </ul> <p>見つけかたがむずかしいな。      こことここがにているよ。</p> <p>見つけたところにせんをひいてみよう。</p>



<p>5 全体で話し合う。</p>  <p>追求する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表された共通点を全体で確認しながらワークシートに書き込ませていく。</li> <li>説明を細かく読み取るのではなく、文章構成の共通点をとらえさせていくようにする。</li> </ul> <p>「まわりにあいずを出して」がにっています。</p> <p>きゅうきゅう車としょうぼうじどう車にあるね。</p> <p>きゅうきゅう車は、けがをした人やきゅうびょうの人をびょういんへはこびます。</p> <p>しょうぼうじどう車、は火じをけします。      ごみしゅうしゅう車は、ごみをはこびます。</p> <p>「はこびます。」「けします。」は、はたらきだね。赤せんをひこう。</p> <p>いきおいよく水を出すことができるようになっていきます。</p> <p>かんたんてあてができるようになっていっているのは、いいところです。</p> <p>いいところは、くふうだね。</p> <p>ごみしゅうしゅう車も、たくさんのごみをつむことができるのがくふうだね。</p> <p>くふうに青せんをひこう。</p> <p>「そのために」がおなじです。○でかこもう。 はたらきの文とくふうの文をつないでいるんだな。</p>
<p>5 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を確認する。</p> <p>まとめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章構成の共通点がとらえられたか評価させ、挙手で確認する。</li> <li>今日の学習を図鑑作りにいかしていこうということを投げかける。</li> </ul> <p>三つの文はにしているところがあったな。</p> <p>おなじようにかけば、ずかんができそうだな。</p>

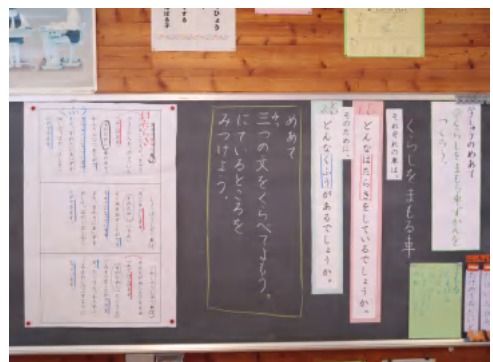
#### 4 成果と課題

##### (1) 成果

- 音読、考える活動（ペア学習）、発表等、児童が意欲的に学習に取り組めた。
- 「くらしをまもる車ずかんをつくろう」という単元を貫く言語活動の設定が、児童の興味・関心を引くものとなっていたので、それを目指して一時間一時間の学習すすめることができた。
- 「くらし」「まもる」など、児童にとって難しい語や抽象的な語について、児童が知っている言葉に置き換えて考えさせたことは、児童が教材文を理解していく上で有効であった。

##### (2) 課題

- 児童の反応や意識の流れを十分想定した上で、発問や支援の仕方を考えていく。
- 授業が広がり、深まるためには、児童の発言後の教師の切り返し方が重要である。



**実践例・第2学年 単元名「あいさつノートを作ろう」**  
**教材文「あいさつのみぶりとことば」**

(10時間予定：本時は4時間目)

**1 本時のねらい**

世界の国々には、様々なあいさつの身ぶりがあることを読み取ることができる。

**2 授業の視点**

様々なあいさつの身ぶりを動作化し、交流したことは、様々な身ぶりがあることを読み取る上で有効であったか。

**3 授業の実際(10月18日実施)**

(1) 評価項目【読むこと】○はおおむね満足できる状況，☆は十分満足できる状況


○様々なあいさつの身ぶりがあることを読み取ることができる。

☆様々なあいさつの身ぶりがあることを読み取り、進んで表現することができる。

(評価方法) ワークシート・動作化・発言

(2) 展開

〈2年2組 18名〉

過程	学 習 活 動	支 援 及 び 児 童 の 様 子
つかむ	<p>1 学習計画を確認し、前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">さまざまなあいさつの身ぶりを読みとろう。</span></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画を示し、前時の学習を思い起こさせる。</li> <li>・単元を貫く言語活動を意識させることで、学習への意欲を高めるようにする。</li> <li>・めあてを示し、全員に読ませる。</li> </ul>
追究する	<p>3 世界の国々には、様々なあいさつや身ぶりがあることを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・④⑤の段落を音読する。</li> <li>・どのような身ぶりがあるか、見つけ、ワークシートに書き出す。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div> <p>【予想される児童の姿】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①読み取ったことを正確に書き出すことができる。</li> <li>②読み取ったことをいくつか書き出すことができる。</li> <li>③読み取ることができない。</li> </ol> <p>4 ワークシートを基に発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの記入の仕方を説明し、例を示す。</li> <li>・書き抜けのない児童には、④の段落を読み返すように声をかける。</li> </ul> <div style="margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 20px;">             どんなあいさつがあるのかな         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             書いてあるところに線を引こう         </div> </div> <div style="margin-top: 10px; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             写真も見よう         </div> </div> <p>【児童への支援】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教科書以外にも知っている身ぶりがあったら書くよう助言する。</li> <li>②段落④を読み返すよう助言する。</li> <li>③写真を見たり段落④を読んだりするよう助言する。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に板書し、まとめるようにする。</li> <li>・児童が分かりやすいように、写真を提示する。</li> </ul>



5 読み取った身ぶりを、動作化しやってみる。

- ・動作化して思ったこと、感じたこと発表する。



- ・⑤の本文に戻り、自分たちと同じ気持ちがかかれていた文章を書き確認する。

まとめ  
6 今日の学習で分かったことをまとめ、発表する。

だき合う    あく手をする    こぶしをつけ合う  
はなをこすりつける    したを出す  
相手の手をひたいにつける  
いろいろなあいさつがあるんだな

- ・動作化することで、あいさつの様子を具体的にイメージできるようにさせるとともに、日本のおじぎと比べさせるようにする。
- ・できるあいさつからどんどんやってみるようにさせる。
- ・どの児童も発言できるように、発表しやすい雰囲気を作る。
- ・友達の感想と、自分の感想が似ているのか、違うのか、考えさせながら聞かせる。

おもしろかった    楽しかった  
抱き合うのは恥ずかしかった  
鼻をこすりつけ合うのはやだった。

- ・「日本では、びっくりするような身ぶりであいさつをする人が地球のどこかにいる」ことを板書し、全員でおさえる。

- ・ワークシートに感想を書かせ、数名の児童に発表させる。

世界の国々には、いろいろとめずらしいあいさつの身ぶりがあることが分かりました。

ほかにもどんな身ぶりがあるのか調べてみたいです。

#### 4 成果と課題

##### (1) 成果

- ・単元を貫く言語活動が、児童の興味を引くものであったので、主体的活動になっていた。
- ・写真や地球儀など、具体物を生かすことができた。
- ・子どもの感想を、本文とつなげ、本文をおさえることができた。
- ・授業全体の構造がわかる板書だった。
- ・発表する児童が多く、意欲的に取り組んでいた。
- ・発表者に体を向けるなど、子どもの学習訓練ができていた。
- ・時間で、集中させる環境づくりができていた。

##### (2) 課題

- ・児童の感想のつなげ方や、交流のさせ方を工夫する。
- ・時間を計るときは、ストップウォッチではなく、砂時計かタイマーをつかう。
- ・大きい声で発言できるようにする。

**実践例・第3学年 単元名「ミラクル〇〇図かんを作ろう」  
教材文「ミラクル ミルク」**

(8時間予定：本時は5時間目)

**1 本時のねらい**

「終わり」には、筆者の伝えたいことが書かれていることが分かる。

**2 授業の視点 — 伝え合う活動を生かした授業構想の工夫**

筆者の伝えたいことを読み取るために、筆者が一番言いたかったことにサイドラインを引かせて、その根拠を考えさせ、小グループで考えを交流させる。

**3 授業の実際（11月20日実施）**

(1) 評価項目【読む能力】 ○はおおむね満足できる状況、☆は十分満足できる状況



○筆者が一番言いたかったことを見つけて線を引くことができる。

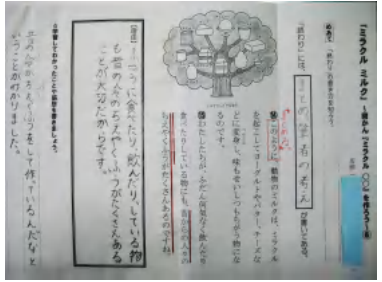
☆筆者が一番言いたかったことを見つけて線を引き、根拠を考えることができる。

(評価方法) ワークシート、発言、観察

(2) 展開

〈3年1組 31名〉

過程	学 習 活 動	支 援 及 び 児 童 の 様 子
つかむ	<p>1 前時の内容を振り返る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時にまとめた表で、「中」には問いの答えとなる変身の例が書かれていたことを確認する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">「中」には変身の例が書いてあったよ。</p> <p style="text-align: center;">ヨーグルト、バター、チーズの3つの例が出てきた。</p> <p style="text-align: center;">「中」は問いの答えにもなっているんだったな。</p>
追究する	<p>2 課題をつかむ。</p> <p>3 まとめの段落を読んで、筆者の伝えたいことを読み取る。</p> <p>4 小グループで考えを話し合う。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑭⑮の段落を音読する。</li> <li>「終わり」は、文章全体のまとめになっていて、筆者の伝えたいことが書かれていることに気づかせる。</li> <li>筆者が一番言いたかったことを見つけて鉛筆でサイドラインを引かせる。</li> </ul> <p>どこに線を引いたかと、どうして選んだのかを伝え合うようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達の意見を聞いて、自分の考えが変わった場合には、線を引き直してもよいことにする。</li> </ul> <p style="text-align: center;">これまでずっとミルクのことを言っていたのだから、⑭の段落じゃないかな。</p> <p style="text-align: center;">⑭は「このように」から始まっているから、まとめている感じがする。だから、⑮が筆者の伝えたいことだと思う。</p>
	<p>5 全体で確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループの話し合いの結果を共有し、筆者が一番言いたかったことは何かを確認する。</li> </ul>

		<p>「ミラクル ミルク」は、ミルクの変身のことが書いてあるので⑭段落だと思います。</p> <p>普段食べたり、飲んだりしている物も昔の人々の知恵や工夫がたくさんあるということが大切だから⑮段落です。</p> <p>筆者は、昔の人々が知恵を出し合って工夫して頑張ってきたということを知ってほしかったのだと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆者は、ミルクの例を挙げて食べ物の変身を説明していたが、他にも「昔からの人々の知恵や工夫」が生かされている食べ物があることを言いたかったのだということを押さえる。</li> <li>・ 筆者が一番言いたかったことに赤線を引かせる。</li> <li>・ 他にも「昔からの人々の知恵や工夫」が生かされている食べ物がないか、調べてみたいという意欲を次時につなげることができるようにする。</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<p>6 本時の学習をまとめる。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「始め」は話題の提示（問いの文がある）、「中」は問いの答えとなる変身の例、「終わり」は筆者の伝えたいことが書かれていることを確認する。</li> <li>・ 学習してわかったことや感想をワークシートに書かせる。</li> </ul> <p>昔の人々が、知恵や工夫をして作っているんだなということがわかりました。</p> <p>「終わり」には、筆者が一番伝えたいことが書いてあることがわかりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次時から、他に変身する食べ物がないか調べ、図鑑作りを行っていくことを知らせる。</li> </ul>

#### 4 成果と課題

##### (1) 成果

- ・ 話し合いの学習形態を小グループから全体としたことは、児童が自分の考えを自信をもって発表することができるようにするために有効であった。
- ・ 導入で単元のゴールと学習計画を示したため、単元を貫く言語活動を児童がしっかりと意識することができた。
- ・ 関連図書コーナーを設け、図書資料を紹介したことで、児童が意欲的に並行読書を行うことができた。自発的にメモを取りながら読んでいる児童も数名いた。
- ・ 見やすく、児童の思考の流れに沿った板書を行うことができた。

##### (2) 課題

- ・ 小グループでの話し合いの進め方をパターン化して示せるようにしておき、児童がそれに沿って話し合いを進められるようにしておく必要がある。また、小グループでの話し合いの経験を増やし、日頃から訓練していくことが大切であると感じた。
- ・ 児童の意見を拾い上げ、それをまとめにつなげていくことが大切である。
- ・ まとめる場面で学習感想を書かせたが、図鑑作りに生かせるような内容も書けると、次の活動につなげることができる。
- ・ 教材文に習って説明文を書く際に、見ながら図鑑作りができるようなワークシートになっているとよかった。
- ・ 「筆者が一番言いたかったことは何でしょうか。」という発問をしたが、視点や目標とのつながりをふまえて吟味する必要があった。

**実践例・第4学年 単元名「事例に注目しながら全体をとらえよう」  
教材文「手で食べる、はしで食べる」**

(8時間予定：本時は5時間目)

**1 本時のねらい**

国別にはしの使い方や形について読み取ることができる。

**2 授業の視点**

はしの使い方や形の違いを読み取るうえで、子どもたちが考えたワークシートをもとに、交流する活動を取り入れる。

**3 授業の実際（9月12日実施）**

(1) 評価項目【読むこと】 ○はおおむね満足できる状況、☆は十分満足できる状況


○はしの使い方や形の違いについて書かれている文をまとめている。



☆根拠を示したり対比したりしながらまとめている。

(評価方法) 発言・ワークシート

(2) 展開

〈4年2組 20名〉

過程	学 習 活 動	支 援 及 び 児 童 の 様 子
つ か む	1 前時の内容を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を貫く学習課題を掲示する。</li> <li>・はしの歴史について確認する。</li> <li>・前時に児童と一緒に作成したワークシートで、本時の学習内容を知らせる。</li> <li>・ワークシートを配布し、めあての確認をする。</li> </ul>
	2 課題をつかむ。 国別にはしの使い方や形のちがいについて読み取るう。	
追 求 す る	3 はしの使い方や形の違いについてまとめる。  《予想される児童の姿》 ①読み取ったことを正確にワークシートに記入している。 ②線を引いているが、観点別に分けられない。 ③どこに線を引いたらよいかわからない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・⑩～⑭段落を各自で音読させながら国別、形や使い方アンダーラインを引かせる。</li> <li>・韓国について全員で文章と拡大写真を照らし合わせながら、確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">韓国では、おかずを取るときに金属のはしを使います。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の国も同様に進めさせる。次の国について書く際には2～3行開けさせる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">《児童への支援》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①よいところを賞賛し、なぜそう考えたのか、根拠を考えさせる。</li> <li>②何について書かれているか問いかけワークシートの書く位置を示す。</li> <li>③国別に囲ませ、はしという言葉に注目させる。どんなはしを使っているかも問う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめるときに困ったり行き詰まったりした場合は、近くの友だちに相談して良いことを伝える。</li> </ul>
	4 全体で話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、国名について確認する。指名は、読み取りの浅い児童にする。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">中国やベトナムです。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">モンゴルです。</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形や使い方について、文章と拡大写真を照らし合わせながら確認する。</li> </ul>

	  	<p>中国やベトナムのはしの形は、日本のものより長くできています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ、はしの長さがちがうのか、なぜ、形や使い方がちがうのか等、理由や根拠を問う発問をする。</li> </ul> <p>なぜ長くできているのかな。</p> <p>大きな皿にもった料理を、みんなの中央に置いて、手をのばして食べるからです。</p> <p>モンゴルでは、肉のかたまりを切り分けるナイフとはしがセットになっていて、一人ずつ持っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>はしの使い方に付随して、食べ方や生活のしかたの違いなどにもふれておく。</li> <li>発表内容をきちんと写すことにとらわれるのではなく、キーワードが落ちないように書いていけばよいということを伝える。</li> </ul> <p>日本についてはどうですか。 どうしたらよいと思いますか。</p> <p>「日本以外に～」と書いてあるので日本はなくてよいと思います。</p> <p>「日本は～」と書かれているからあったほうがよいと思います。</p> <p>「日本は、短いはしでよかった。」と書かれているので、あった方がよいと思います。</p>
<p>まとめ</p>	<p>6 本時の学習を振り返る。</p> <p>今日の学習で分かったことや考えたこと、感想などを書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「このように」はどんなはたらきがあるのか考えさせる。</li> </ul> <p>このようには、前の文章のまとめが書かれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時に関わる感想を書くようにさせる。</li> <li>学習感想は、黄色で囲ませる。</li> </ul>

#### 4 成果と課題

##### (1) 成果

- 既習事項の振り返りやめあての分かりやすい提示などにより、児童が見通しをもって学習に取り組めた。
- プレ授業の改善点からワークシートの内容について再考したことで、より児童が考えを表現しやすくなり、交流活動に生かすことができた。
- ハンドサインを活用して考えを比べながら聞くことができていたことや、教師の「なぜ」「どうして」という発問により、児童の考えが深まった。
- 本時の学習の最後に、学習感想を書く活動を取り入れ、単元のまとめの活動に生かすことができた。

##### (2) 課題

- 単元を貫く言語活動は、児童に必要感のある活動を設定していくようにする。
- 児童の意識の流れに基づいた授業展開や、発問の吟味を行うことが必要である。

**実践例・第5学年 単元名「コミュニケーションの達人になろう！」**  
**教材文「くり返しのはたらき」**

(8時間予定：本時は3時間目)

**1 本時のねらい**

事例とくり返しの部分を抜いた事例などを比較して、くり返しの役割やはたらきをつかむ。

**2 授業の視点**

くり返しのはたらきをとらえるために、ロールプレイでくり返しのはたらきを確認しながら交流する活動を取り入れる。

**3 授業の実際（10月7日実施）**

(1) 評価項目【読むこと】 ○はおおむね満足できる状況、☆は十分満足できる状況

○くり返しの役割やはたらきを理解し、表にまとめている。

☆くり返しの役割やはたらきを理解し、積極的に発言したり、表にまとめたりしている。


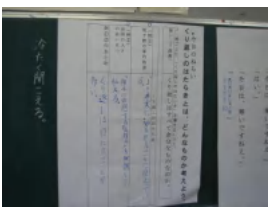
(評価方法) 発表、プリント

(2) 展開

〈5年1組 28名〉

過程	学習活動	支援及び児童の様子
つ か む	<p><b>1 本時の学習課題について確認する。</b></p> <p>単元を貫く言語活動「コミュニケーションの達人になろう！」</p> <p>○毎日の生活の中での、くり返しの表現を思い起こす。</p>	<p>・単元を貫く言語活動を意識させることで、学習への意欲を高めるようにする。</p> <p>・意見が出やすいように、予め考えさせておく。</p> <p>・発表させながら、考えてきた活動を賞賛する。</p>
	<p>読んでいる詩の中に戻りがありました。</p> <p>ニュース速報で「もう一度繰り返します。」と言っていました。</p> <p>とても便利です。</p> <p>自分の意見がない人のようです。</p> <p>めあて「くり返しの役割やはたらきについて考えよう。」</p> <p>○同じ言葉をくり返し言って「くだい」「だらだらしている」と言われたことはないか考える。</p>	<p>・くり返しの表現を聞いたり、見つけたりしてどう思ったか発表させる。</p> <p>・ねらいを黒板に掲示して、本時の学習内容を明確にする。</p> <p>・問題提示文の前にある「くり返して言うことに対する批判的な意見」に着目させる。</p>
追 究 す	<p><b>2 事例と事例からくり返しを抜いたものなどを較して、くり返しの役割とはたらきをつかむ。</b></p> <p>○例①の地下鉄の放送から、くり返しの役割やはたらきについて考える。</p> <p>・例①と例①のくり返しのないものを隣同士で言ってみる。</p>	<p>・ポイントを絞って考えられるように事例ごとに、抜き出した掲示物を用意しておく。</p> <p>・形式段落1～10までを、各自で音読させる。</p> <p>・2つを比較して、どのように感じるか発表させることで、くり返しの役割やはたらきをつかみやすくさせる。</p>
	<p>1回目だと聞き漏らすことがある。</p> <p>2回言われると聞き漏らすことが少ない。</p> <p>○例②のやりとりから、くり返しの役割やはたらきを考える。</p> <p>・例②と例②のくり返しを抜いたものを、隣同士でロールプレイ</p>	<p>・くり返さない例はどうなるか、隣同士で考え発表させる。</p>



<p>をする。 ・友達のロールプレイを見て考える。</p> <p><b>冷たい感じがするときがある。言い方によって伝わり方が変わってくる。</b></p> <p>○例①と例②のくり返しの役割やはたらきの違いをプリントにまとめる。 【予想される児童の姿】 ①まとめて書ける。 ②違いを書き抜いている。 ③違いが書けない。 ○例①と例②のくり返しの役割やはたらきで共通することを表にまとめる。</p> <p><b>余分なこともあるが、必要なことを繰り返すのは大切。コミュニケーションに役立つことが多い。</b></p>	<p>・比較して、どのように感じるか 発表させる。 ・ここでは、計画的指名をして、いろいろな例を取り上げる。 ・くり返した場合でも、相手と同じような調子で言わなかった例を出させ、調子によって、気持ちの伝わり方が違うことに気づかせる。 ・違いを考えさせることで、くり返しの役割やはたらきを読み取らせる。</p> <p>【児童への支援】 ①いろいろな違いを考えさせる。 ②短くまとめるように指示する。 ③形式段落⑧⑨に着目させる。 ・共通することを考えさせることで、一見余分なように見えるくり返しが、「日常のコミュニケーションの中で役立つこと」を読み取らせる。</p> 
<p>ま と め る</p> <p>3 本時のまとめをする。 ○学習予定表の振り返り欄に今日の学習でわかったことや感想、交流会で役立てたいことなどを書く。</p> <p><b>交流会では、4年生にわかりやすく伝えるようにする。くり返しを使うと分かりやすく伝わることが分かった。</b></p>	<p>・数名の児童に発表させ、学習の振り返りをする。</p> 

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・授業実践の積み上げを通して、単元を貫く言語活動を位置づけた授業づくりを行っていく上での支援、手立てが明らかになり、児童が学習全体を見通し、めあてを意識しながら、興味・関心をもって学習に取り組むことができるようになった。
- ・学習のねらいや児童の実態を踏まえ形式等を吟味したワークシートを活用することで、児童は自分の考えを書き表した上で交流活動に生かすことができた。
- ・学習の中でペアやグループでの交流活動を意図的に取り入れることにより、自分の考えを意図的に伝え合うことができるようになった。全体交流の場においても、理由や根拠を挙げながら考えを伝えたり、自他の考えを比べながら聞いたりする態度が身に付いてきた。
- ・「学習のやくそく」の周知、徹底により、学習に取り組む基本的な姿勢が身に付いてきた。
- ・並行読書を取り入れて学習を展開することで、学習関連図書への児童の意識、意欲の高まりが見られるようになった。

### (2) 課題

- ・考えを伝え合い、それを広げ、深めていく授業を作っていくためには、児童の考えを適切に見取ること、また、児童のつぶやきを授業の流れに生かしながら発言をつないでいけるような有効な補助発問等の手立てを工夫していく必要がある。
- ・前学年での既習事項を次学年に生かしたり、身に付けた学習習慣を次学年でさらに向上させたりできるように、学習内容の系統や児童の実態についての共通理解をさらに深めていく必要がある。
- ・単元を貫く言語活動が、児童の実態を踏まえた上で児童にとって必要感があり、興味・関心をもてるものになるよう、十分吟味していく必要がある。年間指導計画にも位置づけ、年間を通して計画的・系統的な指導ができるようにしていく。

**実践例・第6学年 単元名 池上彰さんと〇〇の  
学べるニュース新聞を作ろう  
教材文「メディア・リテラシー入門」**

(6時間予定：本時は4時間目)

**1 本時のねらい**

形式段落⑨～⑯を読み、4つのメディアのニュースの特徴を読み取り、違いを比較することができる。

**2 授業の視点**

- ・自分の考えを持ち、どの児童も自分の考えを表現できるようにするために、読み取りの場面において、グループで話し合う活動を設定する。
- ・単元を貫く言語活動として、読み取ったことと自分の考えを新聞にまとめていく活動を取り入れる。

**3 授業の実際（12月4日実施）**


(1) 評価項目【読むこと】 ○はおおむね満足できる状況，☆は十分満足できる状況

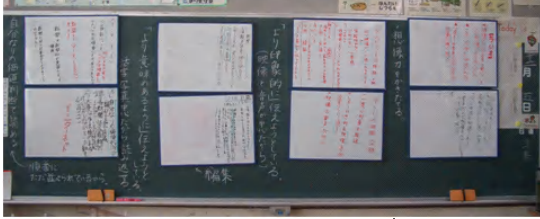

○メディアによるニュースの特徴を読み取り、まとめている

☆メディアによるニュースの特徴と違いを読み取り、まとめている。

(評価方法) ワークシート・発言

(2) 展開

過程	学 習 活 動	支 援 及 び 児 童 の 様 子
つかむ (課題把握)	<p>1 前時までの学習を振り返り今日の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>もとは同じ「第1次情報」なのに、私たちの入手するニュースはずいぶん異なる。メディアによって ①どのように異なるのか ②どうして異なるのか 読み取ろう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて：テレビ・ラジオ・新聞・インターネットのニュースの違いを読み取ろう。</p> </div>	<p>・振り返りやすくするために、今まで書きこんできた新聞を読み返す。</p>
追究する (自力解決)	<p>2 形式段落⑨～⑯を読み、自分の担当するメディアのニュースの特徴を読み取る。</p> 	<p>・はじめに黙読しながら線を引く、次に箇条書きにする(キーワード・キーセンテンスを抜き出す)、速くできた場合は、最後に文章で書くという手順を示す。</p> <p>・グループを作っておき、初めの5分は一人で、次の10分は相談しながらグループでまとめていくようにする。</p> <p>・キーワードやキーセンテンスをホワイトボードに箇条書きさせる。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>テレビのニュースの特徴は・・・、ここに書いてあるね。箇条書きでまとめよう。</p> </div>

話し合う（練習合い）	<p>3 読み取ったことを発表し合い、全体で話し合って違いをつかむ。</p>  <p>新聞は、写真や活字が中心。 何度も読み返せるから、深く意味を 考えることができます。</p>	<p>・グループの代表に説明させる。ホワイトボードも掲示し、聞く側が視覚的にもとらえられるようにする。</p> <p>ラジオは、映像がなくて音声だけで伝えるから、想像力をかきたてます。</p> <p>テレビは、情報を伝える速さが速い。音声と映像で、印象が強く残ります。</p> <p>インターネットのニュースは、自分なりの価値判断で読めます。</p> <p>・共通点や相違点に目を向けさせ、それぞれの特徴を比較し、違いをつかむ。</p> <p>伝える速さが違います。 伝える方法も違います。</p> <p>ラジオやテレビは「音声や映像」で、より印象的に… 新聞やネットは「活字や写真」で、より意味のあるように…</p> <p>・違いはどこから生まれてくるのかを考えさせ、「伝える側の意図」に気付かせ、次時につなげる。</p>
まとめ	<p>4 本時の学習をふりかえり、新聞に書きこむ。</p>	<p>・板書やホワイトボードを参考にしながら、4つのメディアの特徴を新聞に整理させる。</p> 

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・単元を貫く言語活動が、本時のねらいを達成するために有効であった。読み取りを進めながら新聞を仕上げていく活動が本単元に合っていた。また、ワークシート（新聞）の構成が書き込みしやすいものであった。
- ・グループでの話し合いが、それぞれの児童が自分の考えを発言する場となっていた。

### (2) 課題

- ・グループでの話し合いにおいて、まとめ方を例示し、ポイントを絞ってホワイトボードに書かせるようにする必要がある。
- ・グループでの話し合いを生かす全体交流の進め方と板書を行うようにする。






# 実践例・なかよし 単元名 表現を楽しもう(「注文の多い料理店」)

(8時間予定：本時は4時間目)

- 1 本時のねらい
  - ・戸に書かれている5番目～8番目までの「注文」を読み、「注文」にかくされた山猫の思いを考える。
- 2 授業の視点
  - ・ペープサートを使って紳士と山猫の気持ちを考えて表現することは、「注文」が紳士と山猫によって変わっていることに気づくために有効であったか。
- 3 授業の実際(7月8日実施)
  - (1) 評価項目
    - おおむね満足できる状況
    - 「注文」は紳士を食べるための注文だったことに気づいている。
 (評価方法) 発言
  - (2) 展開
 

〈対象児童 5年女子2名〉

過 程	時 間	学 習 活 動 (予想される児童の反応) ●	支援及び児童の様子	評価項目と方法
つか む	10	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>出てくる人って登場人物のこと。</p> <p>二人の紳士と山猫。</p> <p>いくつだったかな。 13じゃないかな。</p> <p>・4番目まで</p> <p>・ペープサートを使って役割ごとに4番目までの注文の場面を演じる。</p>	<p>・前時までの学習を確認する。</p> <p>今日の学習です。お話に出てくる人は誰ですか。</p> <p>○紳士と山猫であることを確認する</p> <p>戸に書かれた注文はいくつありましたか。</p> <p>・忘れていたら教科書を開かせ【】の数を数えさせる。</p> <p>○13こあったことを確認する。</p> <p>注文の何番目まで学習しましたか。</p> <p>○どんな注文があったかペープサートで振り返り話を思い出させる。</p>	
考 え る	25	<p>2 本時の課題をつかむ</p> <p>今日は5～8の「注文」で山猫の注文した気持ちについて考えます。</p> <p>・山猫、眼鏡の紳士 ・じゃんけんで決めよう。 ・5番目の注文の言葉を読む。</p> <p>「お客様方、ここでかみをきちんとして、それからはきもののどろを落としてください。」</p> <p>なんでだろう。 どろがついていたらやだ。</p>	<p>・前時と同じように注文の場面ごとにペープサートでやりとりすることを伝える。</p> <p>○ペープサートの役割を相談して決める。</p> <p>・5番目の注文の言葉を提示する。</p> <p>どうして山猫はこんな注文をしたのでしょうか。</p> <p>・ペープサートを使う。</p> <p>・児童に交代で山猫役をさせる。</p> <p>・紳士のセリフを読ませる。</p> <p>・どうしてはきもののどろを落とさせたのかを考えさせ二人で話し合わせる。</p> <p>○分からないときは、紳士の台詞を山猫に聞かせる寸劇を演じる。</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>6番目の注文の言葉を読む。「鉄砲とたまをここへ置いてください。」</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">鉄砲は食べられない。鉄砲はこわい。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>7番目の注文の言葉を読む。「どうかぼうしと外とうとくつをお取りください。」</li> <li>外とうって何ですか。</li> <li>食べるのにじゃまなのかな。</li> <li>8番目の注文の言葉を読む。「ネクタイピン、カフスボタン、眼鏡・さいふその他金物類ことにとがった物は、みんなここに置いてください。」</li> <li>ネクタイピンやカフスボタン、金物類って何ですか。</li> <li>5～8番までの注文を読み山猫役になっていう。</li> <li>なんて言えばいいんだろうと固まってしまう。</li> <li>場面ごとに考えたことばを言う。</li> </ul>	<p>6番目の注文の言葉を提示する。          どうして山猫はこんな注文をしたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どうして鉄砲とたまを置くのかを二人で話して考えさせる。</li> <li>○分からないときは「鉄砲はどういうものですか。」と質問する。</li> <li>7番目の注文の言葉を提示する。          どうして山猫はこんな注文をしたのでしょうか。</li> <li>ペーパーサートを使う。</li> <li>○分からないときは、山猫を出し、「おなかですいたな」と台詞を言い山猫の気持ちを知らせる。</li> <li>外とうは冬のコートだと伝える。</li> <li>8番目の注文の言葉を提示する。          どうして山猫はこんな注文をしたのでしょうか。</li> <li>ペーパーサートを使う。</li> <li>紳士の台詞を読ませる。</li> <li>どうしてとがった物はここに置くのかを二人で話して考えさせる。</li> <li>○分からないときは、「とがった物を食べたらどうなるかな。」と投げかける。</li> <li>分からない言葉を説明する。</li> <li>「とがった物は危ないからな」</li> <li>○今日の学習をまとめる</li> <li>注文の言葉を読んだ後で山猫役になって気持ちを言ってみよう。</li> <li>A 児、B 児が演じた後にそれに対しての感想を言わせる。</li> <li>「台詞」を書いた紙を見せる。</li> </ul>	  
まとめる 7 	<p>3 注文の意味について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>注文の意味って何だったかなあ。</li> <li>②の注文をつけることじゃないかなあ。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">山猫の注文は二つの意味のどちらでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>注文の意味を掲示して見せる。</li> <li>まず自分の考えた番号を決めさせて書かせ、その後で二人で話し合わせる。</li> </ul>	<p>「注文」は紳士を食べるための注文だったことに気づいている。</p> <p style="text-align: right;">【発言】</p>
予告 3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">どうなるのかな。紙みたいにしわしわになっちゃうんだよね</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">次の時間は残りの注文9～13について学習します。</div>	

#### 4 成果と課題

##### (1) 成果

- 特別支援の必要な児童にとって、内容が難しいがペーパーサートは話を理解するのに有効な手立てであった。
- 役割を交換してまたせりふを繰り返すことは、内容を理解していく上で有効である。
- ある程度内容が分かっている児童は、説明をしていく中で理解が深まり内容の理解が低い子は説明を聞いて内容がだんだん理解できてきた。
- 長い内容は焦点化することが大切である。

##### (2) 課題

- 子どもが意識の流れに沿って対応していくことが大切である。
- 板書は工夫して、児童にとって分かりやすいものにしていく。
- 難しい言葉が多いが言葉を大切に繰り返し指導していくことが大切である。

# 実践例・第3学年 算数 単元名「たし算とひき算の筆算」

(7時間予定：本時は4時間目)

## 1 本時のねらい

十の位に空位がある3位数－3位数の減法の筆算の方法を考えることができる。

## 2 授業の視点

ペア説明や他者説明を取り入れて説明させたことは、考えを深めるのに有効であったか。

## 3 授業の実際（6月24日実施）

(1) 評価項目【数学的な考え方】 ○はおおむね満足できる状況、☆は十分満足できる状況

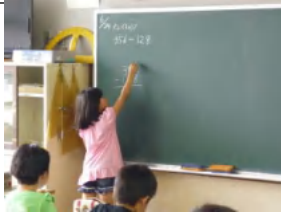
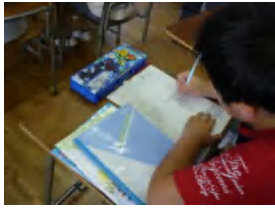
○空位のある3位数の減法の筆算の仕方を図や式で説明することができる。

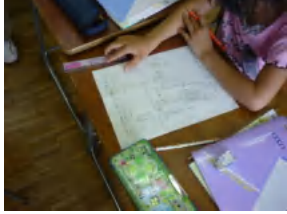

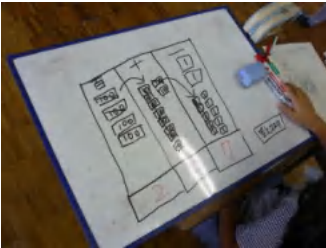
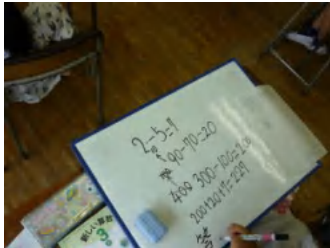
☆空位のある3位数の減法の筆算の仕方を3位数の加法や2位数の減法の仕方をもとに類推し、図や式で説明することができる。

(評価方法) 発言、学習プリント

(2) 展開

3 展開 評価項目：○はおおむね満足できる状況、☆は十分満足できる状況

	学習活動と児童の意識	支援及び指導上の留意点
つかむ	<p>1 筆算復習をする。</p> $\boxed{356 - 128}$ <p>2 本時の課題を知る。</p> $402 - 175$ <p>の筆算のしかたを考えて説明しよう。</p> <p>3 解決の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの引き算の方法を使ってみよう。</li> <li>・引けないときは大きいところから借りよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの筆算の計算をして、学習したことを思い出す。</li> <li>・筆算の形を確認し、計算について予想させる。</li> <li>・今までの筆算を使えばできそうだ。</li> <li>・上から引けないとき、隣から借りることができないので、どうすればよいかを考えさせる。</li> <li>・となりから借りられないぞ。</li> </ul> 
自力解決	<p>4 計算の仕方について自分の考えを書いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予想される児童の反応</li> </ul> <p>ア100を10の束10束にして、さらに10の束を1のバラ10個に分けてから引けばいい。</p> <p>イ100を10の束9束と1のバラ10個に分けて引く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時との違いについて確認し、問題となる点を明確にする。</li> <li>・数カードとの関連を考えさせて、機械的な計算だけでなく図なども使って考えさせる。</li> <li>・上から下のものを必ず引くことを確認する。</li> <li>10は無いので、100を持ってきて・・・</li> </ul> 

	<p>《予想される児童の姿》</p> <p>①既習事項を使い図や式を使って筆算の仕方を説明できる。</p> <p>②筆算の説明はできるが、図や計算を使うことができない。</p> <p>③筆算の説明ができない。</p>	<p>《児童への支援》</p> <p>①賞賛し類題について考えさせる。</p> <p>②数カードなどを用いて説明できないか考えさせる。</p> <p>③どこからいくつを引くのか考えさせる。</p>		
<p>練 り 合 い</p> <p>5 ペアでお互いに説明する。</p> <p>6 代表が全体で説明する。</p>	<p>・数カードや計算を意識させてお互いに説明させる。</p> <p>・説明を聞くとき、自分の考えと似ているか違うのか考えさせながら聞かせる。</p> <p>・代表に発表する児童をあらかじめ選出してホワイトボードに記入させておく。</p> <p>・分かったことなどに頷きなどを入れるなど、お互いを認め合えるようにさせる。</p> <p>・同じ点や違う点など自分の考えと比べながら友だちの考えを聞くようにさせる。</p>			
<p>ま と め</p> <p>7 本時の学習をまとめる。</p> <p>・隣から借りられないときもあるんだな。</p> <p>・借りられないときはさらに大きい位から借りればいいんだな。</p>	<p>・10の位から借りられないときは100の位から借りてくれば引き算ができることをまとめさせる。</p> <p>・本時のまとめをし、学習への取り組みを賞賛する。</p>	<p>・隣から借りられないときもあるんだな。</p> <p>・借りられないときはさらに大きい位から借りればいいんだな。</p>		

#### 4 成果と課題

##### (1) 成果

- ・言葉や図・式で自分の考えを表すことができていた。
- ・ヒントカードは分かりやすかった。
- ・「はじめに」「つぎに」などの言葉を使って、分かりやすく説明できていた。

##### (2) 課題

- ・時間配分、ペースがうまくいかなかった。
- ・準備が不十分だった。

## 実践例・理科・第5学年 単元名「ふりこのきまり」

(8時間予定：本時は2時間目)

### 1. 本時のねらい

振れ方の違う2つのふりこのようすやテンポふりこの振れるようすから、ふりこが1往復する時間を変化させる要因について発表し合い、考えを共有化することを通して、条件を制御した実験計画を進んで立てようとしている。

### 2. 授業の視点

生活体験や既習事項を想起し、ブラックボックス化したふりこのひみつを考えさせることで、ふりこの運動のきまりをつかませ、条件を制御した実験計画をたてさせる。

### 3. 授業の実際(11月14日実施)

(1). 評価項目【自然現象への関心・意欲・態度】 ○はおおむね満足できる状況  
○テンポふりこのふれる様子に興味をもち、進んでふりこのふれ方を調べようとしている。

(評価方法) ワークシート・発表

(2). 展開 〈5年1組 30名〉 ◆児童から出された意見・児童の反応

	学習活動 (児童の反応)	時	支援及び指導上の留意点 (児童の反応)	児童の反応
つかむ	・本時の学習内容をとらえる。		・一見同じに見えるゴリラのふりこが違うテンポで振れることに興味を持たせる。	◆あれ、どうして振れ方がちがうのかな？ ◆マジックかな。 ◆うしろに何かあるんだ。 ◆おもりまでの長さも重さもちがうと思う。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">どうして2頭のゴリラの振れ方が違うのだろう。</div> ・ふりこの長さ、おもりの重さ、テンポについて確認する。	7分	・ブランコやターザンロープので、1往復の時間が短かった時(速かった時)を思い出させる。	
予想する	・テンポふりこをメトロノームに合わせて振れるようにするにはどうすればよいか予想し、発表する。	13分	・一人ひとりがテンポふりこを持ち、「1分間でメトロノームに合わせてられるようにいろいろ試してよい」ことを伝える。 ・やってどうだったかを記録させる。 ・4種類のふりこでチャレンジ。	◆おもり2この方がはやくなるのかな？ひもを短くするといいかも。 ◆うまくあわない。 ◆おもりが重い方がおそくなる気がする。 ◆あと少しで合いそうだ。 ◆ひもの長さでかわるかな。 ◆とても楽しい。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">テンポふりこの何を変えたらメトロノームのテンポに合わせてられるだろう。</div>		・予想したことを発表させ、自分との比較をさせる。	

<p>追究する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メトロノームのテンポを変え、それに合わせるのに、どうすればよいか、グループで話し合う。</li> <li>◆ひもの長さを短くすればよい。</li> <li>◆おもりをおもくする。</li> <li>◆振れ幅を大きくするとはやくなる。</li> <li>◆おもりの重さを変える。</li> <li>・各グループの予想を発表し、意見交流する。</li> <li>◆おもりの種類でなく重さだと思う。</li> <li>◆ひもの長さは同じでも振れ幅を大きくするとはやくなると思う。</li> <li>◆ブランコだと立って乗るとはよくなったから、ひもの長さだと思う。</li> <li>◆ターザンロープだとはじめのいきおいでちがったよ。</li> <li>・調べる条件についてまとめていく。</li> </ul>	<p>20分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目よりテンポをはやくさせ、ふりこのテンポをはやくする方法を話し合わせる。</li> <li>・ブランコやターザンロープでの体験や予想での実験も踏まえて、予想させ、実験計画につなげていく。</li> <li>・グループで意見がまとまったら、ホワイトボードに記入させ、発表の準備をさせる。</li> <li>・手元にあるテンポふりこで予備実験をしてよいことを伝える。</li> <li>・自分たちの班と同じなのか(似ているのか)、ちがうのかを考えながら、しっかり発表を聞かせる。</li> <li>・発表の際、考えた根拠をできるだけ発表させるようにする。</li> <li>・4人グループでリーダーとなる児童を決めておき、役割を分担できるようにする。</li> <li>・先に発表したグループと同じ内容でも、自分の言葉で発表させるようにする。</li> <li>◆おもりの重さ ◆ひもの長さ</li> <li>◆振れ幅 ◆初めのスピード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆なんかはよくなっている。</li> <li>◎テンポ振り子の振れる様子に興味をもち、根拠をもって予想し、積極的にふれ方を調べようとしている。(ワークシート、発表)</li> <li>○テンポふりこのふれる様子に興味をもち、進んでふりこのふれ方を調べようとしている。</li> <li>◆はじめ長くしたら、ゆっくりだったけど、短くしたら速くなった。もっと短くすればよい。</li> <li>◆～班と同じで、おもりを変える、だけど、小さくした方がいい。</li> </ul>
<p>まとめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふりこが1往復する時間は何によって変わるのかを確かめる実験について話し合う。</li> <li>・次時の予定を確認する。</li> </ul>	<p>5分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おもりの重さ」「ふりこの長さ」「振れ幅」等、予想の時に児童から出たものを調べる条件と同じにする条件に分けるようにする。</li> <li>・「おもりの大きさ」「ひもの種類」なども出されたら、実験でとりあげるようにする。</li> <li>・予想の多かった条件から実験していくことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「重さ」を調べる時は、その条件だけを変えて、他は変えない。</li> <li>◆「長さ」を調べる時は、長さだけを変えればよいと思う。</li> </ul>



楽しくテンポふりこをふる

## 4. 成果と課題

### (1) 成果

- ・生活体験（ターザンロープやブランコ）の体験や既習事項を想起し、感想を発表させたことは、ふりこのきまりをつかませる実験計画を意欲的に考えさせることに結びついた。
- ・ゴリラのふりこや4つのふりこを準備し、学習プリントを用意したことで、やることを明確にし、興味を喚起し、ふりこを振る楽しさをつかませ、集中して学習することができた。
- ・3・4人の小グループで、司会や記録係等の役割を決めることで、話し合いを活発に進めることができた。

### (2) 課題

- ・グループで出された多様な意見を全体で交流させる場では、それぞれの班で出された根拠（理由）も含め、しっかり板書し、比較して考えさせ、意見を深めさせることが必要である。
- ・目当てを児童に分かる言葉で明示し、ゴールに向かって何をすればよいのかをより明確化することが大切である。
- ・教師の説明や友だちの意見をしっかり聞き、自分の意見を深めていける学習態度を確立していくことも大切である。



予想し、意見交流



班での話し合い



みんなでテンポふりこをふる



調べる条件についてまとめる

# 研究のまとめ

## 1 成果

- ・授業実践の積み上げを通して、単元を貫く言語活動を位置づけた授業づくりを行っていく上での支援、手立てが明らかになり、児童が学習全体を見通し、めあてを意識しながら、興味・関心をもって学習に取り組むことができるようになった。
- ・学習のねらいや児童の実態を踏まえ形式等を吟味したワークシートを活用することで、児童は自分の考えを書き表した上で交流活動に生かすことができた。
- ・学習の中でペアやグループでの交流活動を意図的に取り入れることにより、自分の考えを意欲的に伝え合うことができるようになった。全体交流の場においても、理由や根拠を挙げながら考えを伝えたり、自他の考えを比べながら聞いたりする態度が身に付いてきた。
- ・「学習のやくそく」の周知、徹底により、学習に取り組む基本的な姿勢が身に付いてきた。
- ・並行読書を取り入れて学習を展開することで、学習関連図書への児童の意識、意欲の高まりが見られるようになった。



〈B訪問 5年〉

## 2 課題

- ・考えを伝え合い、それを広げ、深めていく授業を作っていくためには、児童の考えを適切に見取ること、また、児童のつぶやきを授業の流れに生かしながら発言をつないでいけるような有効な補助発問等の手立てを工夫していく必要がある。
- ・前学年での既習事項を次学年に生かしたり、身に付けた学習習慣を次学年でさらに向上させたりできるように、学習内容の系統や児童の実態についての共通理解をさらに深めていく必要がある。
- ・単元を貫く言語活動が、児童の実態を踏まえた上で児童にとって必要感があり、興味・関心をもてるものになるよう、十分吟味していく必要がある。年間指導計画にも位置づけ、年間を通して計画的・系統的な指導ができるようにしていく。

### 25年度 研修に携わった教職員

校長	遠藤由美子	低学年部会	中学年部会	高学年部会
教頭	角田 明大	小林真由美	星野美由紀	田島 晃代
研修主任	見城 由香	下飯志津子 (4月～12月)	小熊 瑞江	大関 一久
養護教諭	中野 彩花	吉澤 早紀 (1月～3月)	関上 智昭	小尾 浩三
事務主事	楠渕 夏実	藤原 恵美		原 泰章
				宇敷 輝男